

自助・・・自らの命は自ら守る！

避難所の運営について、皆さんはどの様に考えて（思って？）いますか。避難所に避難していけば誰かがいて、食事の用意など全て誰かスタッフがしてくれるものとの思い込みがありませんか。大地震など被害が発生すると、着の身着のままで避難所に避難することとなりますが、避難所の当初の開設は行政やボランティアが行うとしても、その後の運営は避難所で生活する方々が協力して行わなければなりません。



ともに平成 19 年中越沖地震避難所の様子 [災害写真データベース](#)から

上の 2 枚の写真は、同じ平成 19 年中越沖地震の柏崎市での避難所の様子です。左の写真に比べ、右の写真はなんとなく荷物は多いものの、整然とした感じがします。一方で左の写真は雑然としています。避難所が開設されてからの経過時間の影響もあるかも知れませんが、避難所立ち上げからどの様に運営していくか、事前に区割りなどイメージができていれば、その後の避難所の運営にも差が出てきます。

こうした大規模な地震が発生し各地域で避難所を開設する場合に、そこで起こる様々な出来事にどのように対応していくかを模擬体験し、学習するための方法として、HUG（避難所の H、運営の U、ゲームの G の頭文字で避難所運営ゲームといいます）というものがあります。



清流の国ぎふ防災・減災センターHUG 指導者講習会下呂会場より

HUG では、避難所に次から次へと様々な事情を抱えた人が避難して来ます。そうした人たちをどこへ、どの様に適切に配置していくかまた、どう対応するかをグループで討議しながら進めるゲームです。

参加者は、災害時要支援者などへの配慮や炊き出し、仮設トイレの設置場所また、物資の保管場所を話し合いながら、ゲーム感覚で避難所運営の仕方を学びます。

災害では、事前に様々なことをイメージしておくことが大切です。特に避難所は当面の間、そこで生活する空間となりますので、少しでも快適な環境を整えることで、避難所生活のストレスも和らげることができます。避難所運営には女性の視点が必要ですので、機会があれば是非、女性の参加をお願いいたします。

次回は、飛騨川河川水位についてお知らせいたします。

下呂市市長公室危機管理課